秋高 同窓会だより

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会
印刷所
秋田マイクロ写真
印刷株式会社

63年度総会百七十人が出席

若い人多く活気
副会長に小沢、小玉両氏

秋高同窓会六十三年度総会は八月二十一日午後二時から秋田市平安閣で開かれた。ことしの総会は、当番年次制となって二年目。会場には当番年次のS8年、18年、28年、38年、48年卒業生を中心に約百七十人が出席、かつてない活気のあるものとなった。

総会は畠山樹之氏（38卒）の総合司会で行われ、貝沼研造氏（18年）が開会のことば、全員で校歌斉唱、物故会員に黙とうをささげたのち、塩田雄次会長が「当番年次制となって二年目、同窓会活動も活発になってきた。各年次ともお互いに連絡をさらに密にしてほしい。母校は硬式野球は残念な結果だったが、代わりに軟式野球部が全国大会に出場した。例え一つの運動部が失敗しても代わりの部が補うのが伝統校の良さであり、これがまた新しい歴史をつくることにつながる。これからも同窓会の活動について意見をいただきたい。きょうは、辞任された大嶋、京野両副会長の後任副会長をも選考するのでよろしくお願いしたい」とあいさつ。また、この春就任した室田弘校長は「同窓会がいつも母校のために援助してくれて感謝にたえない。自分は二十六年の卒業生だが、同窓会に出席していつも感ずることは先輩と後輩が親睦により、きずなを深め合うことは何よりも心強い。本当に秋高を卒業したことを誇りに思う」とあいさつ、さらに母校の現況、進学、運動部の活躍状況などについて報告した。

次いで塩田会長が議長となって議事に入り、会務報告、常置委員会報告、六十二年度収支決算を監査報告を承認、六十三年度事業計画並びに予算案を原案通り可決した。

また、廣島名簿委員長から「来春の名簿発行について」また、太田企画委員長から六十八年の百二十周年記念事業について「活性化のための答申に基づいて学校当局、各支部の意見を聞いたうえ、一、二年後には記念事業委員会を発足させたい」と提案があり、承認された。

このあと引退された大嶋民治副会長（8年）と六郷町長に就任し辞任された京野大三副会長（12年）の後任人事にうつり、佐藤民治氏（11年）を委員長に選考委員会を開いた結果、新副会長に小澤雄象（12年）、小玉得太郎（18年）の両氏、大嶋、京野両氏とこの春退職された榊田前校長を顧問に選任した。

小澤、小玉両新副会長の就任あいさつの後、記念講演に入った。講師は二十六年卒の伊藤隆東大文学部教授。招へいの労をとった小玉得太郎氏が同教授の経歴を紹介したあと、テーマは「今、なぜ町田忠治か」。

近世史の権威として知られる伊藤教授は、母校の一期生で戦前から何度も大臣を務め、政治ばかりではなく、日本の経済界にも大きく貢献し、本県人としては首相に最も近い位置にあったといわれる町田忠治の郷土から上京するまでの足跡をたどり、県内で散逸されつつある大先輩の資料を惜しみ、「県内にも盛岡の先人記念館のような施設がほしい」と提言、感銘を与えた。

若い人も多く参加し活発だった63年度総会

小澤雄象副会長

小玉得太郎副会長

S26卒の東大教授
伊藤氏が講演

西木氏（S34卒）に直木賞
猿橋賞の佐藤さん（S31卒）急逝

本校出身者から直木賞作家と女性科学者に贈られる猿橋賞の受賞者が、本年度に入ってから相次いで出た。

第九十九回直木賞に輝いたのは、昭和三十四年卒の西木正明氏（本名鈴木正昭）。「凍れる瞳」「端島の女」で受賞した。

同氏は、早大在学中に探険部を創部、アラスカ探険に出かけるなど、根っからの冒険野郎。同大中退後は雑誌記者を経て、「オホーツク諜報船」で文壇にデビュー。同作品が第七回ノンフィクション新人賞を受賞するとともに直木賞候補に。以来三回、同候補にノミネートされていた。本県出身者では四人目。本校出身者では初の快挙である。四十八歳。仙北郡西木村出身。横浜市港北区高田町二六五四の五五住。

一方、第八回猿橋賞を受賞したのは、昭和三十一年卒の佐藤周子さん。東北大医学部卒業後同大放射線基礎医学教室を経て、同四十五年に愛知県がんセンター研究所に入所。「放射線によるがん細胞死」の研究が認められ、今回の受賞となった。

しかし佐藤さんは、受賞約一カ月後の六月二十三日、急性心不全で死去した。五十歳だった。同センター初の女性管理職者として、研究もままならないほど多忙なところに、今回の受賞での疲れも重なって倒れたものと思われる。「もっと研究一筋の生活をさせてあげたかった」と、同期生などが故人の業績を惜しんでいる。死亡時の住所は名古屋市千種区光ケ丘二丁目一四ノ一一。

（西木氏の受賞の喜びを2面、佐藤さんへの追悼文を3面に掲載）

31年ぶり全国大会
母校軟式野球が健闘
同窓会募金七四五万円

母校の軟式野球部が全国大会で健闘した。

さる八月一日八戸市で行われた奥羽予選で青森県代表田名部高校を4－0で下し、晴れの奥羽地区代表権を獲得したもの。

母校の軟式野球部が全国大会に出場するのは、三十二年の第三回以来、三十一年ぶり三度目。このため同窓会でも組織を通じて募金活動を行い、九月五日現在で総額七百四十五万円余に達した。

在校生や同窓生の熱い期待を背に八月二十五日から兵庫県の明石市で行われた第三十三回全国大会に出場したナインは、二回戦で優勝校の広島県の広陵高と対戦、惜しくも0－1でサヨナラ負けを喫したが、大会終了後、広陵高ナインに「初戦の秋田高校戦が最も苦しかった」と言わせるほどの大健闘だった。

なお、募金の詳細については別にお礼を添えて報告する。

（4面に詳報）

来春に会員名簿を発行
確認状は必ず事務局へ

同窓会本部は来春をメドに会員の名簿を発行することになった。会員名簿は百十周年を記念して業者に発注して刊行したが、五年経過した現在、同窓生の変動が激しいうえ、新しい会員も増えたことから、昨年購入したコンピューターを使い、名簿委員会（廣島吾郎委員長）中心に新しく作成、発行する。

作業の段取りは、百十周年当時の名簿を各年次が訂正し、それを名簿委がコンピューターにインプットし、さらに各年次に確認してもらう仕組み、

現在、各年次に確認状を発送しているが、会員総数二万八千人にのぼるぼう大な資料。最終的には年末までに確認作業を終えたい考え。

名簿委では確認状は、必ず本部事務局に送り返すよう各年次に協力を求めている。

同窓会決算・予算

	昭和62年度決算書	昭和63年度予算書
〈収入の部〉		
入会金	2,760,000	3,312,000
年次会費	1,300,000	1,300,000
役員会費	2,050,000	2,000,000
協賛広告収入	490,000	600,000
基金運用収入	93,163	300,000
雑収入	131,130	100,000
繰越金	1,250,753	1,486,531
合計	8,075,046	9,098,531
〈支出の部〉		
事務費	1,194,994	1,060,000
会議費	1,663,361	1,980,000
事業費	2,524,330	3,800,000
基金	1,000,000	1,500,000
雑費	205,830	250,000
予備費	0	508,531
合計	6,588,515	9,098,531
繰越額	1,486,531	

◇昭和62年度基金会計

〈収入の部〉		〈支出の部〉	
前年度繰越	11,303,742	コンピューター代金	1,498,000
寄付金	523,000	〃 消耗品	10,200
一般会計より繰入	1,000,000	計	1,508,200
利息	285,198		
計	13,111,940	差引残金	11,603,740

天上天下

都内の私立高校で教べんをとっている高橋俊昭氏（27年卒）から「カロザスと秋田の新聞」なる論文が送られてきた。カロザスは明治十二年から三年間、母校の前身、秋田師範中学予備科で英語を教授していた人。秋高百年史や秋田県史などにも紹介されている▼論文は数多くの資料を基にカロザスが秋田に滞在中に当時の地元新聞に寄稿した中から、その影響、県内の政治、経済状況、さらに県内に芽生えていた自由民権運動とのかかわりなどを高橋氏なりに分析し、まとめたものである▼明治二年宣教師として初来日した後、二度にわたって来日、文部省の派遣教師となって国内各地を回り、明治の教育界に大きな功績を残したカロザス。いわば外人教師の草分け的存在だが、その足跡はなお不明な点が少なくないと高橋氏は指摘する▼創立百十五年を経たわが母校。門下からは数多くの著名人を生み、教べんをとった偉大な教育者は数知れない。これこそ伝統校でなければあり得ない貴重な財産である。そしてその先輩や恩師の足跡を追う後輩も少なくない。高橋氏や記念講演した伊藤隆東大教授、さらには直木賞作家西木正明氏もその一人だろう▼母校の一期生、町田忠治を研究する伊藤教授は資料の散逸を嘆いていた。県人としては誠に耳の痛い話である。偉大な先覚の資料を失うことは、秋田の文化を失なうことに等しいからである。盛岡市には先人記念館があるし、盛岡一高でも資料室が整っていると聞いた▼二十一世紀を担なう若い後輩たちのためにも先覚の資料はもとより、その足跡を追い続けている文化人たちの努力の結晶をきちんと整えておきたい。それが校歌の精神につながるといえる。

できるだけ会合を
若年次の強化で懇談会

初の年次強化策懇談会が七月二十六日午後六時から秋田市千秋会館で開かれた。同懇談会は同窓会の活性化の一環として若年次組織の整備、強化が急務ということで開かれた。

この日は四十一年次卒業生から五十年次卒業生までを対象に各年次代表二名が出席、塩田会長のあいさつに続き、企画、財政、名簿、広報の四常置委員長から各委員会の現況が報告された。

続いて太田企画委員長の司会で懇談に入り、それぞれ自己紹介ののち各年次の実情が紹介された。それによると、若年次はすでに同期会だよりを三回も発行した(49年)、過去総会四回、今年は卒業二十周年記念を開催した(43年)など活発に活動している年次もあるが、大半は、転勤者が多く、名簿が未整備(41年)卒業二十周年記念を来年に控え、北海道から沖縄まで散在している同期生に連絡を取るだけでも大変(44年)などそれぞれ大きな問題を抱えていることがわかった。

特に若年層になるにつれ、小グループごとの集まりはあっても、同期会としてのまとまった会合をほとんど開いていない年次が多かった。従って年次の役員も未整備なところがほとんどまた同期会と同窓会との関連に疑問を持つ年次もあった。

そこで懇談会では、同じ高校を卒業した同士であり、後輩たちのためにも同窓会本部と各年次のパイプを太くする。各年次ともできるだけ会合を数多く持つことなどを話し合い、組織の強化のために同窓会本部から十年次にそれぞれ必要に応じ、通信費として三万円を補助することになった。

西木氏、創作に意欲
「来年はスパイ小説」
34期卒同期生 直木賞受賞祝う会

ユーモアたっぷりにあいさつする西木正明氏

昭和三十四年卒同期生による「西木正明君直木賞受賞を祝う会」が、九月十二日秋田市の弥高会館で開かれた。

秋田高校始まって以来の快挙。それを仲間がやってのけた、ということで、当日は県内在住者六十数人と在学中の恩師七人が馳け付けた。

会では、西木君が「高校時代の劣等生が、先生たちや優秀だった仲間に囲まれ、こうした晴れがましい席にいるのは身の細る思いだ」とユーモアたっぷりに話しはじめ「来年は、秋田市出身の故須磨弥吉郎代議士のスペイン使時代にスポットを当てた、スペイン小説に取り組みたい」と今後の創作に意欲満々のあいさつ。

次いで、西木君が三年生の時の担任だった桜谷吾朗先生(同窓会事務局長)が、直木賞の受賞作となった「凍れる瞳」の内容にふれながら、桜谷先生自身の青春時代と戦争について語られた。

このあとは、乾杯に続いて歓談となったが、約四年ぶりの同期会だっただけに、深夜になっても宴は果てなかった。

なお、今回の会に先だち、昭和三十四年卒で首都圏在住者たち三十数人が、さる八月一日に東京・原宿で「西木君の直木賞受賞を祝う会」を開いている。

同期会では、来年が秋田高校卒業三十年に当たることから、来年七月末に記念大会を計画している。主な内容は西木君の講演(一般聴衆が対象)、ゴルフのコンペなどである。

故伊藤氏夫人が寄付
母校強化にと矢留クに

母校野球部の大先輩、故伊藤勝三さんの夫人静江さん＝東京都板橋区大山西町44－5＝が、今後、毎年定期的に寄付金を続けられることになった。

銀行の信託制度を通して、元金一千万円から生じる利息分を自動的に矢留クラブに預けるものだ。

同クラブでは、これを基金として、会費など含めて積み立てながら、野球部の後輩たちに資金援助していく方向である。

生前、「余裕があれば母校へ寄付を続けてほしい」と語っていた伊藤さんの遺志を受け継いだ静江さん。「秋田のスポーツ振興のために、主人の遺志を生かすのは私の務めです」と温かい言葉を寄せている。

静江さんは、これまで四度にわたって、屋内練習場建設資金やトレーニング機器購入費の一部として寄付して来られた。また、母校だけでなく、県内の高校運動部のためにさる七月、三千万円を寄付、「伊藤勝三スポーツ振興基金」が設定されている。

故郷の人々
＝西木正明＝

九月十日から十三日にかけて、ひさしぶりに帰郷した。出身地の西木村と秋高の同期生の皆さんが、直木賞受賞のお祝いをして下さるというので、いそいそと秋田に帰って来たのである。

お祝いの行事そのものはいずれも盛会で、身に余るものを感じたが、同時にとてもありがたく思ったのは、何十年間も無沙汰にしていた恩師の先生方や旧友に会えたことであった。気の遠くなるような時間のカベが間に横たわっているにもかかわらず、どの方も昔とわらぬ姿形で目の前に現われた。

それぞれいろいろな人生試練があっただろうに、そういう時間がなすりつけた垢などさっぱりと払い落して登場するなつかしい顔の数々……。わたしは無頼の徒で、ふだんはあまり神仏などに縁のない生活をしているが、この時ばかりはその存在を信ずる気になった。

わたしのように、浮草稼業に身を置いている者は、ともすれば故郷、あるいはそこに生活している人々との絆などを忘れがちになる。それがこういう機会に、しょせんは故郷というおしゃかさまの手から自分は逃れることが出来ない、ということを思い知らされて、柄にもなくしんみりとした気持になったのだった。

母校創立120周年事業など検討

◎**常任理事会**(六月二十四日)

本年度常任理事会は、六月二十四日、平安閣に於て会長以下五十名が出席して開催された。まず、会長、学校長の挨拶に次いで理事会に提案する次の案件について協議した。

(1) 常置委員会よりの報告
(2) 理事会提案の案件として
イ、会務並びに事業報告
ロ、昭和六十二年度収支決算
ハ、昭和六十三年度事業計画並びに収支予算案について
ニ、名簿発行について
ホ、母校創立百二十周年
(3) 理事会、総会の日程について理事会は七月二十九日(金)総会は、当番年次打合会の案の通り八月二十一日と決定

◎**理事会**

七月二十九日(金)アキタニューグランドホテルに於て理事会が開催された。出席者は、これまで最高の八十五名を数え、関心の高さを示した。

◎**支部長会議**

本年度支部長会議は、八月二十一日、総会に先だち、十二時三十分より平安閣4F竹の間に於て、東京支部長の金谷勇氏の外、男鹿、東仙北、西仙北、市役所の四支部から出席、本部からは正副会長に常置委員長が出席、自己紹介の後、情報交換に入り、まず事務局から会の活性化後の全般的動向について、組織面、財政面からの説明あり、次いで常置委員長から各委員会の活動状況について報告、名簿の発行や母校創立百二十周年について今後の取り組みについて説明がなされた。その後各支部長から支部の状況などについて報告あり、予定通り終了した。今年は第三回であったが、例年出席支部が少く今後の課題であろう。

総会への協力期す
第二回当番年次打合会

本年度第二回の当番年次打合会は、八月九日、千秋会館に於て、大嶋副会長、太田企画委員長、各年次より各二名出席の上第一回打合せの大綱に基ずいて総会の次第、司会者、懇親会の次第、司会者など、更に各年次より総会出席者の動員など、具体的内容について話し合い、よりすばらしい総会の運営を期して協力体制を敷くことにした。

七月八日)

五月には主として、年次強化策と創立百二十周年について話し合った。若い年次の強化は、色々な事情から仲々大変だが、まずなんとか年次の名簿作成を進めて同期会開催までもって行くためには、通信費などの補助が必要であろうということで、その予算化に努力することにした。

百二十周年については、タイムスケジュールを立てる必要があるのではないかということになり、今後の検討課題とした。

七月の会合では、認められた年次強化費五十万円の具体的使い方について話し合った。原則として、S41卒～S50卒までの十年次を対象として、一年次三万円を補助する案をまとめ、更にその年次を対象に「強化策懇談会」を近く開催することを決定した。

△**名簿委員会**(五月二十六日、六月九日、二十七日)

昨年より手作りの同窓会名簿発行を目指して、新委員を加えて活躍を続けている。

この間、名簿原稿未提出年次対策、S41卒以降卒業生対策、名簿の体裁、頒価の決定、資金の準備等と精力的に作業を進め、現在次々とカードの発送を行い、来年二月末発行をメドに着々と作業を進めている。

△**財政委員会**(六月六日)

今回は、特に企画、名簿委員会の要請あり、両委員長の出席のもとに開催された。両委員長から要請された「年次強化費」「名簿作成準備費」として、それぞれ五十万円を予算計上することにした。

常置委員会だより

本年度に入り、各常置委員会は、二月四日の合同委員会の後現在までに次のような話し合いを行った。

△**広報委員会**(四月十八日)

今年から年三回発行することになったが、その一回の編集会議は、諸般の事情で遅れ、そのため発行も予定より遅れた。次回からは予定通りの発行に努力することを誓い合う。

△**企画委員会**(五月二十三日、会費の未納者には、このだよりとともに再度払込用紙をお送りしましたのでよろしくお願いいたします。

事務局だより

▼昨年より実施した当番年次制のお蔭で、理事会、総会など以前に比べて出席者も多く、盛会になったことは誠に喜ばしいことですが、その半面無断欠席者の多くなったことが事務局の悩みです。大変な予算の無駄遣いになりますので、今後のご協力をお願いいたします。

▼本年度の年次会費は、九月十日現在で次の各年次から納入いただきました。未納年次は早目にお願いいたします。なお役員

▼だより二十六号で報告後の会務は次の通り。

▽5・20 だより二十六号発行▽23 企画委員会▽26 名簿委員会▽6・6 財政委員会▽9 名簿委員会▽23 大曲支部総会▽24 常任理事会▽27 名簿委員会▽7・8 企画委員会▽23 会計監査▽26 年次強化策懇談会▽29 理事会▽8・21 支部長会議・総会▽29 広報委員会▽・1 名簿委員会▽10 鹿角支部総会▽14 近畿支部総会▽17 営林局支部総会▽29 東京支部総会

慶祝(判明分)

◎**猿橋賞**
佐藤(武田)尚子氏(S31卒)

◎**文部大臣表彰**
加藤惇夫氏(S30卒)

◎**直木賞受賞**
鈴木(西木)正昭氏(S34卒)

◎**文部大臣表彰**
畠山太郎氏(S11卒)

贈答用・高級みそ製造
貝沼商店
貝沼研造(S8卒)
貝沼基(S44卒)
秋田市旭南2－7－20
TEL(0188)62－5718

畠山正高(S8卒)
秋田市千秋城下町4－18
TEL(0188)33－7231

参議院議員
出口広光(S18卒)

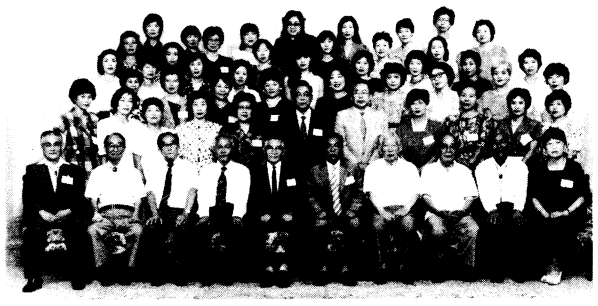
秋田県天然瓦斯輸送株式会社
一関久夫(S18卒)
秋田市土崎港南一丁目七ノ三五

藤田歯科医院
藤田捨己(S18卒)
苫小牧市本幸町二ノ三

安田医院
安田正男(S18卒)
男鹿市船越本町一〇
☎三六五三五－三二一一五

全員で秋高音頭踊る

盛会だった若菜会の集い



二年おきに開かれる若菜会（秋高卒の女子の会）が、去る八月十二日に秋田市の彌高会館で開催された。

室田現校長始め、仙台からわざわざ駆けつけて下さった氏家良隆先生や小川良子先生を含め先生方十二名、卒業生は四十二名出席した。お盆で帰省中の県外在住の会員も多数参加して盛会であった。

会は、室田校長と秋山まり子代表の挨拶、東京から参加した北川幸さん音頭の乾杯で始まり、なごやかな歓談と、各期代表による自己紹介や先生たちの近況報告等のうちに楽しいひと時が過ぎた。

最後に全員で秋高音頭を踊り、校歌を高らかに斉唱して、午後九時前に散会した。

若い気持ちで近況語り合う

秋田市で昭六同級会

昭六同級会を六月五日(日)午後四時半からアキタニューグラ

つどい

中会 秋十六年 思い出綴り会誌発行

四年に一度の大同級会

私たち十六年卒は、現在連絡とれるのが一六〇名、入学時A～Eの五組、あわせて二五〇名おったわけだから、だいぶ減ってきた。

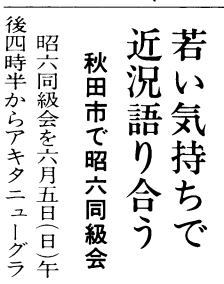
ただ、十五年卒から上の先輩のかたの年次にくらべれば戦死者は少なく、むしろあの頃の結核でなくなった者が多い。

私たち一六〇名は、割と連絡よく、会報を発行したり、毎年の県内クラス会、そして四年に一回の全国大同級会には元気な顔をみせている。

ことしはオリンピック、そして私たちの大同級会の年、全国から集まる者七十名、八月二十日恩師山下先生をお迎えして開催した。その状況は例の如しで特にご報告する特徴はないが、一点だけ、この会に合せて十六年会誌二〇〇頁を編集発行し、入学以来の五十二年を振り返った次第、内容これまた私たちだけに通用するしろもの、云々するのは恐縮至極なので省くが、ただ、これから年次記念誌を考えられるむきには多少の参考になろうかと思っている。

実は、編集に当り、十二年卒の先輩皆様が、立派な卒業五十周年記念誌「天上遙かに」を出しておられるので、ご教示をいただいた。

なお、このたびは、四年に一度のせっかく集まる機会、楢山グランド跡、東根小屋の旧校舎跡、手形校舎跡をめぐるとともに、ご出席いただけなかった先生をお見舞し、また、なくなられた先生の仏前にお花をささげ往時をしのんだ。（信太勝記）



褒章受賞と町長当選喜び励ます

秋中五十期お祝いの会

▽秋田県自動車整備振興会などで、長年にわたり理事、理事長として活躍、先に運輸大臣表彰を受けたわが期の佐々木茂雄氏が、このたびは、藍授褒章を受賞した。そのお祝いの会を六月十日、アキタニューグランドホテルに於て有志二十数名の諸兄が参集してお祝いの会を開催した。

▽わが同期の本会副会長京野大三氏が、郷里の六郷町の町長選に出馬、我々を心配させたが、幸いにも若者の支持を得て、約千票の差をつけて見事当選を果たした。その喜びの会を七月十四日、アキタニューグランドホテルで有志二十数名が参集開催された。

周子さんの死を悼む

（S31卒）野木　真理子

昭和二十八年の四月、二十六名の女子生徒が、共学になって三度目の新入生として秋高の門をくぐった。県北、県南から、そして市内から、いずれ劣らぬ才知の星と、それぞれが自負していたに違いないけれど、中に、ひときわ燦然と輝く大粒のダイヤモンドが混じっていた。それが武田周子さんだった。

全員が納得する秀才だった。常に学年のトップにいたのは学科試験の成績だけではない。卓球やバスケットも、小柄ながら俊敏な動きで勝負をかけ、白衣を着ければ生物部で、生徒会の役員も、お遊び会の余興にもと、彼女の活躍はあらゆる分野でめざましかった。

女子は二クラスに分かれていたが、選択科目や合同授業で一緒になることが多く、とても仲が良かった。武田さんをリードに、三十一期生二十六名の乙女達は、睦み合い、競い合い、花のように笑いながら、あの駅前の木造校舎の中を廻り歩いていた。

ちょうど十年前の、奇しくも同じ六月、私は四十一歳の自分の誕生日を記念して、大阪までのひとり旅をした。その帰途、名古屋で新幹線を降りると、高鳴る胸の鼓動を覚えつつ改札口に向かった。高校を卒業して以来、二十三年ぶりの再会だった。

長い髪をきちんと結いあげ、きれいな色のスーツと身につけた装身具も充分に選び抜かれて、さすが国際的に活躍される科学者としての威厳が惨み出ていたけれども、私には女性としての円熟した美しさの印象の方が強かったように思う。

高二時代の運動会の周子さん（左）と筆者

まるで素人記者のように、私は敬意と好奇心を抱いて沢山のことを問いかけた。研究の内容のこと、語学のこと、ご主人のこと、家事のこと、ひいては地位や収入のことまでも伺うことになった。その頃、中学生だったご子息のことを語る時、武田さんのあの余裕のあるほほ笑みは、ほがらかにくずれて、母親の顔になった。

「四十を過ぎても、女性であっても、決して臆することなく、夢の実現に努力すべきなのよ」と、私は、その時彼女が教えてくれた勇気と不断の向上心のほんのかけら程でも、今に持ち続けているかどうか、恥じいるばかりである。

全国紙を華々しく飾り、我が母校の歴史に、殊更に輝く栄光の一頁を加えてからわずか五十日足らずで、突然不帰の人となってしまった武田さん。どんな過酷なストレスが、あのひとの強靱な精神と肉体を蝕んでしまったのか――。

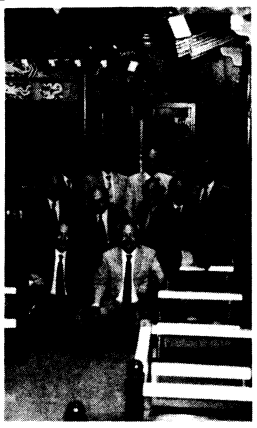
二十五名の残された同期生は、その死を悲しみ、深く哀悼の意を捧げるものであります。

先生の愛称に懐しさ

馬羊会、横浜に集まる

昭和十一年卒の東京周辺に集う同窓会があります。（生れ歳が午・羊から馬羊（ばよう）会と呼称しています）六月十七日横浜の中華街で別記の級友達が集り楽しいひとときを過しました。

さて、次の語句に懐しさを思い出せませんか……。マムシ、オニコ、モルモット、ジャイ、ボキ



ヤボラリ、坊ちゃん、ペロ、ロクチャ、モンキー、モンパ、モジ、シチ、弾丸、など、この愛称ですべてが理解ができ、中学生活を十分思い出すことができるのです。

誰かが「本当の名前は何んと言ったっけ」と発言したけど、明確に答える返事がなかったことを報告しておきます。

当日の出席者＝伊東博、田中廣吉、石田正、有坂孝一、三浦正孝、井川雄治、青崎不二太郎、丹下敬一、小田部精一。

（東京都板橋区赤塚新町三―五―五馬羊会幹事　今行雄記）

ドホテルで開催した。

遠来の池田静一君外十八名。もうだいぶの年輩になるが、いずれも若い頃の気持ちで二時間もかかってひとりひとり近況を報告しあった。又それぞれ知りえた旧友達の近況など、消息を交換した。

お互いの健康を祝し、これからも元気であるよう乾杯し、三時間程で懇談をおわり、鎌田民治郎君の音頭で校歌を合唱して散会した。再び元気で会うことを楽しみにして。

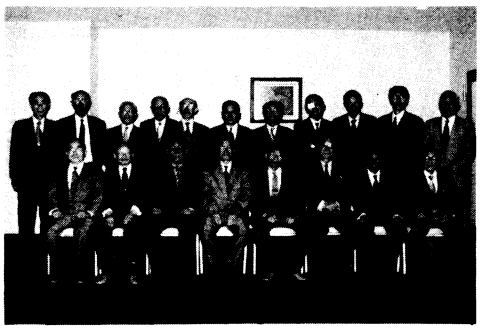
出席者は写真の（上段右から）川本卓見、菊地杜夫、武藤理市郎、平進、芹田陽、遠藤三郎、平沢尚忠、阿部武次、三浦実、菅原作衛、島田洋治（坐った方々右から）松淵悌逸、浅田重夫、近藤英夫、佐藤豊吉、池田静一、鎌田民治郎、根田正吉、佐々木令章

（菊地杜夫記）

室田校長から近況の報告も

昭和矢留会が総会

四月二十三日午後三昭から、久しぶりで昭和矢留会総会を、小野旅館で開いた。学校から、室田校長、同窓会から桜谷事務局長の両名を迎え、会員二十五名が出席して行われた。



菅原会長のあいさつに続いて、室田校長が近況報告、授業時間延長の生徒からの反応は賛否両論であるが、効果のあがる方法と思っているとの話があった。

桜谷事務局長からは、同窓会の内容変更等について説明があり、会員の一層の協力が、不可欠の要素であると強調されていた。

続いて協議事項に入り、菅原幹事長から、規約、役員の改正について提案があり、出席会員の賛同を得た。

席上、若い会員の参加について工夫を図るべきでないかとの意見があり、事務局では、課題として考えたいと思っている。

懇親は続き、午後七時ころ、全員で校歌、副歌を高らかに、蛮声を張りあげて歌い、名残りをおしみながら散会した。

（小野一記）

哀悼（判明分）

西村　善松（S15）鹿角市62・10
後藤　清忠（S31）秋田市63・5
佐々木武夫（S9）秋田市63・4
西野　忠男（T11）秋田市63・6
石井一雄（S15）五城目町63・6
三浦　秀雄（S18）秋田市63・6
佐藤（武田）周子（S31）名古屋市63・6
高橋　国蔵（S20）秋田市63・6
落合喜久郎（S6）秋田市63・7
高橋助次郎（S14）秋田市63・7
佐藤　勝司（T14）大阪府
越後　竹司（S25）秋田市63・7
三浦功七（S19）八郎潟町63・7
山本　一（旧職）千葉市63・7
辻　隆一郎（S17）秋田市63・7
内藤　斉治（T11）秋田市63・8
諏訪　綱久（S11）秋田市63・8
三浦金市郎（S7）秋田市63・8
石井興太郎（T11）男鹿市63・8
高野　信夫（S20）秋田市63・9
工藤生右エ門（S6）秋田市63・9
加藤　景一（S5）千葉市63・9

秋田八銀会行

赤津　弘
磯崎　稔
老松　昭
大渕貞利
斉藤寿弥
佐々木明美
諏訪純人
高泉　伸
高橋英雄
千葉　豊
鍋島利照
広島芳雄
福田英夫

秋田相互銀行八会

佐藤次夫
高橋三男
鈴木房夫
沓沢健吉

31年ぶり全国大会出場

強豪広陵と熱闘

惜敗 晴れ晴れとした笑顔

軟式野球

第三十三回全国高等学校軟式野球選手権大会は、八月二十五日から兵庫県の明石公園、高砂市営両球場を会場に行われた。

本校軟式野球部は、昭和三十二年の第二回大会以来、実に三十一年ぶりに奥羽地方大会を勝ち抜き、全国大会へコマを進めた。今年のチームは例年よりも小粒であり、それだけに普段の練習においても、一つ一つのプレーに全員が集中すること、一つミスが出てもそれをみんなでカバーして守り抜くことを最重点に鍛えた結果、チームワークの良い集中力を持続できる存チームに仕上った。県予選、奥羽大会五試合のうち四試合をエース中田の力投で完封で飾り、一試合平均得点五点強、チーム打率二割八分という軟式としては非常に高い打撃成績を残して優勝した。

八月二十二日夜、盛大な見送りを受けながら出発。翌朝大阪駅で秋田県人会、秋高同窓会近畿支部の役員の方々の暖かい歓迎を受け、いやがうえにも闘志をかきたてられ明石へと向う。

▽2回戦（26日・13時10分、高砂市営球場）

	秋田	広陵
1回	0	0
2	0	0
3	0	0
4	0	0
5	0	0
6	0	0
7	0	0
8	0	0
9	0	1x
	1	0

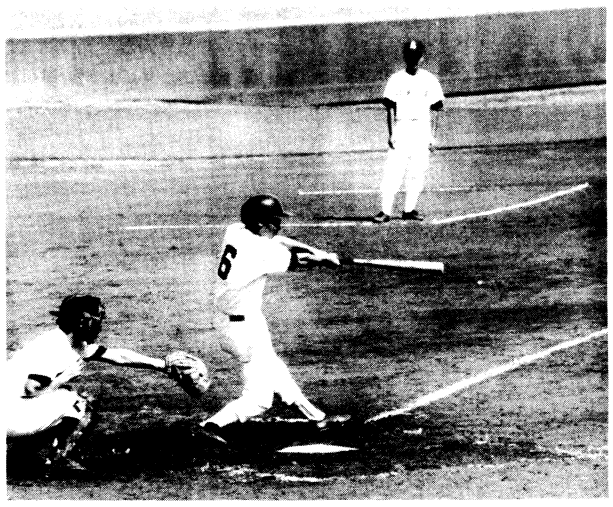
【秋田】

		打数	安打	打点	三振	四死
⑧	吉田	2	0	0	1	3
②	鈴木	4	0	0	2	0
③	立石	4	0	0	2	0
⑦	進藤	3	0	0	1	1
①	中田	3	1	0	1	1
⑨	下田	3	0	0	1	1
④	伊藤	4	0	0	2	1
⑥	小野	3	1	0	1	0
⑤	堀川	3	1	0	1	0
	計	29	3	0	11	7

【広陵】

		打数	安打	打点	三振	四死
③	北林	5	2	0	0	0
⑤	大山	4	2	1	1	0
④	々木	4	0	0	1	0
②	佐本	4	0	0	1	1
⑦	山村	3	0	0	0	0
⑨	中添	4	0	0	1	1
⑧	川下	4	3	0	0	0
①	竹居	2	0	0	0	0
⑥	鳥楳	4	2	0	0	1
	計	3	1	0	0	1
		33	10	1	4	2

秋田 1 0 10
犠 併 残
広陵 3 0 11



県予選、奥羽大会を勝ち抜いた秋高打線、全国大会では決定打が出ず惜敗。

試合までの三日間は、体調の維持につとめ、攻守の最終チェックを行った。

八月二十六日、高砂市営球場。前の試合、仙台商―新宮戦が延長戦になり、暫く控室で待たされる。対広陵戦、先攻で試合開始。一番吉田四球を選び二盗に成功するも先制ならず。五回表、小野、堀川が連続ヒット。吉田の送りバントは捕手の思い切ったプレーで三塁間一髪の封殺、チャンスを逸す。この後中田の投球が冴え、試合の流れはわが校に傾く。しかし九回裏、軟式特有の投手の頭を越える高いバウンドの内野安打が二本出て一死一、三塁。ここで満塁策を取り、次打者の難しい二塁ベース寄りのゴロを二塁手伊藤難しい体勢から絶妙のコントロールで本塁封殺。延長戦の気配が濃くなる中、二番大山の当たりは右前にフラフラッと上った打球。右翼手下田猛然と頭からスライディングキャッチを試みるも、グローブの先三十センチでバウンドしてサヨナラヒット。

私は守備位置から戻ってきた選手たちの晴れ晴れとした笑顔を忘れられない。硬式野球部経験者で占められる広陵高校を相手に互角の試合をやった選手たちを〝さすが秋高生だ〟と賞賛してやりたい、それが私の偽らざる心境です。

剣道は4連覇飾る

インターハイへ剣道団体と8個人

全県高校総体で奮戦

今年度の秋田県高校総合体育大会は、県南地区を主会場とし六月四日から四日間にわたって熱戦が繰り広げられた。（陸上競技は五月二十七日～三十日、水泳は六月三十日～七月二日）

母校からは、総勢三九八名の選手が出場し、健闘したが、団体優勝は、あぶなげなく四連覇を成し遂げた剣道のみで、準優勝は、決勝で大曲農に1―2で惜敗した柔道とボートのナックルフォアだけという結果にとどまった。

個人の東北高校選手権大会出場以上の上位入賞者は次のとおりである。

インターハイ出場の剣道部メンバー
左上から渡辺監督、川嶋、工藤、泉、
左下から小松、斎藤（主将）、岸の各選手

◇剣　道
●斎藤淳一（二位）

◇柔　道
軽中量級　森元季人（二位）
鎌田玄徳（三位）
中量級　●木村勇次（一位）
宇佐美晋也（二位）
軽重量級　竹内　栄（二位）

◇卓　球
ダブルス　伊藤博樹　佐藤　順（三位）
シングルス伊藤博樹（ベスト8）
●竹谷みな子（二位）
シングルスカル
●長野大介（一位）

◇ボート

◇バドミントン

◇陸上競技
男子S　松橋弘光（ベスト8）
男子W　松橋・中島（ベスト8）
男子200M　伊藤幸治（六位）
400M佐々木藤和（一位）
800M●大野　享（四位）
1500M　大野　享（四位）
110MH西田　幹（六位）
400MH●佐々木藤和（一位）
1600MR（中島・大野・伊藤　佐々木）（一位）
女子200M田口真紀子（五位）
走高跳●佐藤真紀子（一位）
◇水　泳
100M平泳●辻　晋（一位）
渋谷嘉久（四位）
400M自由形工藤至史（五位）
1500M自由形工藤至史（五位）
200M、400M個人メドレー　宮越　大（ともに四位）
400MR（三浦・渡辺・三浦　工藤）（四位）
400MメドレーR（宮越・辻　渋谷・三浦）（四位）
（●印は、インターハイ出場）

【東北高校選手権大会】
柔道は、個人戦軽重量級で、竹内栄が優勝、中量級で宇佐美が準優勝という成績をあげた。二人とも二年生なので来年が大いに期待される。

陸上競技は、男子400MHで佐々木が三位（記録54秒08）、女子走高跳びで、佐藤が三位（1m61）、男子800Mで大野が四位（2公54秒26）という成績をあげた。

ボートは、ナックルフォアは決勝進出を果たしたが、惜しくも五位、シングルスカルで長野も準決勝で敗退。ダブルスカル（県予選なし）では、鎌田・斎藤組が初優勝を飾った。

水泳は、100M平泳で辻が標準タイムに近い好記録をあげ、インターハイ出場権を獲得した。

また、剣道・卓球・バドミントンは惜しくも入賞を逸した。

3回戦進出と大健闘

囲碁部

今年から部に昇格した囲碁部は県大会を勝ち抜いて七年連続の全国大会出場となった。八月一日より東京の日本棋院で行われ、初日団体戦、二日目個人戦であった。団体戦は一回戦山口県代表徳山高校を2対1で破り二回戦進出。その相手鳥取県代表米子東高校も2対1で破り三回戦に勝ち進んだ。そこで北海道代表札幌南高校と対戦、これに勝てばベスト8に入れるとあって善戦したが惜しくも1対2で敗れた。初めての八位内入賞を逃がしたが、久しぶりの三回戦進出と大健闘であった。個人戦には二年の堀川健が出場、二回戦で神奈川県代表に敗れた。この大会で、秋田高校のレベルは決して全国的にみて低くないことが立証され、来年度以降が楽しみである。

二年連続全国大会へ

放送委員会

六月のNHK杯全県大会において昨年に引き続き総合銀賞の栄冠を手中にした放送委員会は、ラジオ番組制作部門で「課題」「自由」とも最優秀賞、そしてアナウンス・朗読両部門では三年の谷内英子、高崎貴海が入賞を果たし、東京での全国大会への出場を決めた。その中でも谷内と高崎は県大会以上の力を十分に発揮し、それぞれ準決勝進出という近年にない好成績をあげた。放送委員会では一、二年にも熱心な生徒が多く今後の活躍に期待されている。

国体出場が続々

【東北総合体育大会（ミニ国体）】

剣道で斎藤、岸拓也、工藤勇樹の三人、柔道で竹内、森元の二人が、それぞれ県チームのメンバーに選ばれた。その剣道、柔道とも優勝したが、その原動力として活躍した。

また、松橋庸之（ラグビー、優勝、国体出場）、石川慶一（サッカー）、竹谷みな子（卓球）も県代表選手として出場した。

ボートでは荻原慎太郎、奥山忍の二人が、ナックルフォアの代表選手となり、準優勝を達成し、これまた国体出場を果たした。

陸上競技では、大野（800M）伊藤（400MR）、佐々木（400M、400MH、400MR）、佐藤（走高跳）、田口（400MR）の五人が、それぞれの種目に出場し、そのうち、佐々木、佐藤が国体出場を果たした。

水泳の宮越（400M個人メドレー）も国体に出場した。

㈱羽後銀行二八会
能代支店長
鈴木　亨
秋田駅前支店長
藤田勝美

秋田テレビ㈱
事業局長
夏井重幸（S28卒）
秋田市八橋本町三―二十四
TEL二四―四一四一

株式会社誠文社紙店
経理課長
一関千里（S38卒）
秋田市寺内字イサノ一三四―一
☎(〇一八八)六四―一〇一一(代)

㈱瀧不動産
取締役
営業企画部部長
木村　真（S38卒）
本社　〒010
秋田市山王三丁目7番1号
☎0188―63―3322

住友海上火災保険株式会社
秋田支店営業課
課長
工藤弘道（S38卒）
〒010
秋田市山王二丁目1番43号
電話(0188)65―0561(代表)

羽後銀行事務部
次長
久米田和太郎（S38卒）
〒010　秋田市中通三丁目一番四一号
電話(〇八八)三三―四二一一(代)

秋田相互銀行
総合企画部企画課
課長
高橋芳男（S38卒）
〒010　秋田市中通五丁目一番五一号
電話(〇八八)三四―一二五一(代)

秋田市農業協同組合
理事
鈴木嘉重（S38卒）
☎(〇一八八)三八―二八二三
秋田市太平山谷中山谷一八一

内藤司法書士事務所
司法書士
内藤　毅（S38卒）
事務所　〒010
秋田市山王二丁目二番二四号
ライオンズマンション二〇二号
☎(〇一八八)六五―三七三一

株式会社藤井材木店
代表取締役
藤井雄吉（S38卒）
秋田市川元小川町四ノ一〇
TEL六二―三三一八(代)

男鹿温泉・日本観光旅館連盟会員
政府登録国際観光旅館（登旅962号）
セイコーグランドホテル
代表取締役
佐藤正昭（S38卒）
〒010-06
男鹿市北浦湯本字草木原50の1
TEL(0185)33―2131(代)

総合建設業＝舗装・一般土木工事設計施工
北日本開発コンサルタント株式会社
日北土建株式会社
取締役社長　酢屋潔（S15卒）
専務取締役　酢屋太（S48卒）
秋田市楢山登町4―50　☎(0188)33―1452